

令和3年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	01	104400	学校文化活動事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	02 学校教育の充実	
	施策	02	豊かな人間性の育成			
目的	児童生徒の文化活動の振興・発展を図るため、補助金を交付し支援する。					
対象	市中学校文化連盟 市内小中学校の児童生徒					
意図	児童生徒が意欲的に文化活動に取り組めるよう、事業を行うことができる。 芸術文化に親しみをもち、意欲的に活動に取り組む。					
事業概要	花巻市中学校文化連盟事業補助金 50千円 市中学校文化連盟が実施する各種事業に対し補助 音楽コンクール等出場事業補助金 29千円 市内中学校の文化部等の大会出場経費の一部を補助					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	補助件数（中文連）	件	計画	1.00	1.00	
			実績	1.00	1.00	
2	補助件数（音楽コンクール等）	件	計画	4.00	4.00	
			実績	1.00	1.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載） 補助金交付事業のため、活動指標の補助件数をもって成果とみなす。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	文化活動の充実は、特色ある教育の展開と心の教育の充実に繋がり、児童生徒の合唱や演劇などへの取組を支援することは、豊かな情操を養うことに資するものであり、公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	日ごろの練習の成果を発揮し、発表する大会が開催されることで、文化活動の一層の振興が図られることから、成果の向上の余地がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	大会運営のための事業費は必要最小限で計上されており、削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	補助の対象は、市内全中学校で構成する組織及び市内全ての児童生徒であり、公費負担は適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	発表の場を提供するなどの連盟の取組等に対し補助金を交付し、中学校における文化活動を支援することで、感情や情緒を育み、心を豊かにする情操教育の充実を図った。
	次年度に向けて	児童生徒の文化活動が円滑に行われ、活動内容の更なる飛躍、ひいては児童生徒の情操教育の充実化に繋げるため、継続した支援が必要である。

令和3年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	01	03	104860	キャリア学習支援事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	02 学校教育の充実	
	施策	02	豊かな人間性の育成			
目的	自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力（生きる力）の育成を図るため、市内外における各種活動を支援する。					
対象	児童生徒					
意図	自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力（生きる力）が身につく。					
事業概要	体験的な学習の充実 5,351千円 農業体験、伝統芸能継承活動、職業体験学習、福祉体験等を実施 被災地訪問、防災に関する授業の実施 生徒会ボランティア活動支援 169千円 生徒会が自ら企画・実施するボランティア活動に対する支援					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	取組学校数	校	計画	30.00	28.00	
			実績	29.00	28.00	
2	参加児童生徒数	人	計画	16,000.00	16,000.00	
			実績	14,281.00	12,926.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	自分が住んでいる地域には良いところがあると思うと答えた児童の割合（小学校）	%	目標	95.00	95.00	
			実績	92.00	94.00	
2	自分が住んでいる地域には良いところがあると思うと答えた生徒の割合（中学校）	%	目標	87.00	87.00	
			実績	88.00	88.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度			目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
体験活動やボランティア活動を通じて、自分の住んでいる地域の良さを改めて知ることになった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	児童生徒が自ら学び、考え、主体的に判断することにより、よりよく問題を解決する力（生きる力）が育成されることを目的としているため、公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	各校において独自の創意工夫により計画・実施しているところであり、今後の成果の向上も期待される。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	地域体験の移動手段に係る経費が大部分であり、交通費の高騰を考慮すると事業費の削減は難しい。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内の全小中学校において取り組まれている事業であり、公費負担は適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	各小中学校における体験的な学習や各中学校生徒会におけるボランティア活動を支援することにより、児童生徒が自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力（生きる力）の育成が図られた。
	次年度に向けて	各校においては、独自の創意工夫によりキャリア学習を実施しているところであるが、児童生徒の生きる力を育成するため、更に特色あるキャリア学習を推進し支援する必要がある。